中学校実践事例

多様な体験活動から命を見つめる

上越市立頸城中学校

1　活動計画（計画の概要と道徳の時間の位置付け）

月	体験活動の概要（全校）
4	○妙高アドベンチャー（自己を見つめる）
5	○看護体験（命を守る）
6	○妊婦さんとの触れ合い体験（命の誕生と成長）
7	○薬物や喫煙の断り方ロールプレイ（命を守る） ○命の講演会（命の誕生と成長） ○命インタビュー（命の誕生と成長）
9	○仲間づくり活動（自己を見つめる）
10	○赤ちゃん触れ合い体験（命の誕生と成長） ○親子で学ぶ命の学習（命を守る）
11	○幼児との触れ合い体験（命の誕生と成長）
12	○救急法の体験学習（命を守る）
1	○仲間づくり活動（自己を見つめる）
2	○助産師による命と性の学習（命と性）

※1 詳細は文末の指導計画参照
※2（　）は学習の視点

道徳の時間

自分にとって大切なものの重要性や、自分が愛されながら生きていることを実感し、自尊感情や感謝の気持ちを深める。

題材「擬似喪失体験」

道徳の時間

人が命を終えるまでを追体験し、喪失感を擬似的に味わいながら、生きる喜びや支えられて生きていることに気付く。

題材「命の体験旅行」

2　活動の概要

当校では命にかかわる多様なプログラムを教育課程に位置付け、命を多面的に見つめることができる生徒の育成を目指して実践してきた。

(1)　仲間づくり活動

命の大切さを実感的・共感的にとらえさせるには、その集団における望ましい人間関係の育成が重要と考え、仲間づくり活動を計画的に設定した。妙高アドベンチャーでは、日常の生活空間から離れた場所で仲間との交流を図った。人とかかわる体験活動を通して、自己理解を深めたり、自他のよいところに気付いたりすることができ、命を大切にする活動を進めていく基盤を作ることができた。

(2) 妊婦さんとの触れ合い体験…「生」から命を考える

５人の妊婦さんを招いて生徒との交流を行った。妊婦さんのおなかに直接触らせてもらい、そのおなかの中に宿っている命を自分の肌を通して感じることができた。また、妊婦体験スーツを着用して妊娠中の実情を体験することで、妊婦さんの苦労や大変さを感じることができた。体験を通して生命の誕生や大切にされてきた自分の存在に気付くことができた。

(3) 赤ちゃん触れ合い体験…「生」から命を考える

生後４～12か月の赤ちゃんとの触れ合いをクラス単位で行った。赤ちゃんを抱く、おんぶする、おむつを替えるなど、肌をとおして命のぬくもりを感じることができた。また、子育ての楽しさ、苦労、子どもへの願いなどを母親から聞いたり、母親の赤ちゃんへのかかわりを見たりすることで、成長の喜びを実感するとともに、自分も親から大切に育てられてきたことを再確認することができた。

(4) 道徳の時間…「死」から命を考える

道徳の時間には、自分が大切にしているものや人を喪失する擬似体験を行った。命の誕生にかかわる体験を通して、「生」の視点から命について考えてきた生徒たちに、今までとは逆の「死」という視点から命を見つめさせることをねらいとした。この活動を通して、生徒たちは、命の有限性や周囲から大切に守られて生きている自分の存在に気付き、さらに自他の命を大切にしようとする気持ちや今を精一杯生きようとする気持ちを高めることができた。

(5) 活動の成果

１年間の体験活動の成果として次のことが挙げられる。

まず、妊婦さんや赤ちゃん、幼児等との直接体験を通して肌と肌、心と心の触れ合いにより命のぬくもりを感じ、命の誕生や成長の喜びを実感することができたことである。また、我が子に対する親の心情に思いを馳せたり、自分の誕生や成長を振り返ったりする学習を進めることで、命の大切さや尊厳への認識を深めるとともに、これまで育ててくれた親に感謝する気持ちも高まってきた。

次に、命にかかわる多様なプログラムを実施することにより、様々な視点から命を多面的に見つめることができたことである。活動をとおして、「生まれてきてよかった」、「限りある命を大切に精一杯生きたい」、「自分を支えてくれる親や仲間などに感謝しよう」などの思いを高めることができた。生命尊重の心情が高まるにつれ、よりよい生き方を考え、自他の命を大切にしようとする態度も育ってきた。

赤ちゃんと触れ合う子どもたち

3　道徳の時間による取組

(1)　主題名

命の大切さ（擬似喪失体験）

(2)　ねらい

①　大切な人、もの、行動の喪失を擬似的に体験することによって、現在の自分にとって何が大切なのかという価値観を再認識する。

②　擬似喪失体験をすることにより、今、生きている自分の存在（命）と自分の大切な人の存在の重要性、自分がいかに愛する人に囲まれ、守られているかということに気付く。

③　自分にとって、大切な人、もの、行動があるように、他の人も同じようにその大切なものをもっていることに気付き、他の人への思いやり、共感の気持ちをもつ。

(3)　主題設定の理由

自分の命を大切だと実感できるには、自分はとても大切にされている、愛する人に囲まれ、守られているという自己肯定感をもつことが必要である。自分の命は価値ある存在だと自覚することができて、はじめて他者もかけがえのない命をもつ存在だと感じることができると考える。この授業において、大切なものを喪失するという擬似体験を行うことにより、自分にとって大切な人（もの、行動）の重要性や自分がいかに愛するものに囲まれて守られているかを実感させながら、自己肯定感を高めたい。そして、自他の命の価値についての認識を深めていってほしい。

妊婦さんや赤ちゃんとの触れ合い体験活動を通して、生徒は命のぬくもりや輝き、周囲の愛情、誕生・成長の喜びを実感することができた。今回の活動では、「死」という視点から命を見つめ、命のはかなさや有限性を感じるとともに、今、自分を支えてくれているものがあるということを再認識し、大切な人やものの重要性、感謝の気持ちをさらに高めていきたいと考えている。そして、生徒がこの授業を通して命の重さに対する思いを新たにし、この後予定されている体験活動で、かけがえのない命の輝きをさらに深く感じられるようにしたいと考える。

（4） 展開

	学　習　活　動	教師の支援
導入	1　本授業のルールを確認する。「ぬいぐるみが来たら、発言をする。そのときは他の人は耳を傾け、心を込めて聞く。」「言いにくいことは無理をして言わなくてもよい“パス”を使える。」	・自分の意見を安心して発表できる教室環境であることを確認する。
展開	2　ピンク、グリーン、ブルーのカードを、各３枚ずつ受け取る。	・カードを配付する。
	3　カードの書き方を理解する。「ピンクのカードには自分にとっても大切な人を３人、グリーンのカードには大切なものを３つ、ブルーのカードには大切な行動３項目を書いてください。」「カードの裏側に名前を書いてください」	・カードの書き方を説明する。 ・３項目書くことがないときは無理に書かなくてもよいことを伝える。
	4《擬似喪失体験１》 ①　カードを並べる。「カードを裏向きにしてランダムに並べてください。」	
	②　授業者が生徒の机上から各色１枚ずつカードを奪っていく。	・授業者が変装し、ＢＧＭ(運命)をかける。
	③　机上に残ったカードの内容を確認する。「残っているカードの内容を見て、何が奪われたか確認してください」	
	④　感想を記入する。「今の気持ち、思ったこと、感じたことをワークシートに記入してください」。	・感想記入後、残っているカードをまた裏向きにして並べるよう指示を出す。
	5《擬似喪失体験２》 ３の②～④の活動を再度行う。	・再度指示を行う。
	6《擬似喪失体験３》 ３の②～④の活動を再々度行い、カードがすべてなくなる。	・再々度指示を行う。
	7　擬似喪失体験の感想を発表する。 「今日の活動の感想を発表してください。ぬいぐるみを渡された生徒は感想を発表しましょう。パスをしてもいいです。」	・ぬいぐるみを生徒の席に次々に持って行く。
終末	8　奪われたカードを返してもらう。	・奪ったカードを生徒に返却する。
	9　カードが戻ってきたときの感想を発表する。	・生徒に大切な人やものや行動はなくなっておらず、自分の周りにあることを伝える。
	10　授業の感想を書く。	

(5) 実践の概要と考察

机上の紙を奪われた生徒は「大切なものがなくなって悲しい」、「もう一生戻って来ないと思うとつらい」、「頼る人がいなくなって居場所がない」、「大切なものがなくなるのはこんなにいやなことか」など、自分の大切なものが失われたことに対する感想を率直に表現していた。また、すべての大切なものを奪われた後には、「こんな状況、考えたくない」、「残るのは不安だけ」、「自分が自分でなくなってしまいそう」、「生きている意味が見付けられない」など、自分の周りにあるものがいかに重要であるかに気付く感想が多くあった。

また、活動全体を振り返った感想には、「しっかり自分と向き合い、大切なものを見付けることができた」、「返ってきたときは、ほっとした」など、大切なものが何であるか、その重要性を再確認したものや、「人やものはいつかなくなるということを考えずに生きていることはもったいないと思った」、「当たり前にあるけれど、いつどこで失うか分からない。だからこそ今を大事に過ごし、大切な人にありがとうの気持ちをもって接していきたい。」など、命の有限性への認識や今を大切に生きていく気持ちの高まりを感じさせるものが多くあった。さらに、「大切に思う人から助けられたり、見守られたりしているから毎日を楽しく、安心して生活できるのだと思った。大切なものがあることがとても幸せだと感じた。」という自分が支えられていることに気付き、感謝していこうというものなど、命の重み、生きることのすばらしさについての深まりを示すものもあった。また、その後の体験活動に向け、意欲を示す意見もあった。

4 体験活動と道徳の時間との関連についての考察

体験活動は「命の誕生と成長」のプログラムを中心として、妊婦さんや赤ちゃん、幼児との触れ合いを中心に行い、「生」の視点から命の大切さを感じることをねらいとして実践してきた。

一方で、多面的に命を見つめることを目的として、命に関する様々な活動を教育課程に位置付け実施してきた。道徳の時間では、体験活動では取り上げにくい「喪失」や「死」を題材とし、その視点から命を見つめさせようと考えた。身の回りの大切な人やものを失う悲しさや、命を失うことの絶望感を想像させる活動をとおして、周囲に支えられながら生きていることの喜びや感謝の気持ちを高め、命の重みや大切さについての考えを深めることができた。

擬似喪失体験でカードを奪われる様子

生徒の命に対する想いは一様ではない。そんな生徒たちにこのような様々な視点から命を見つめさせることで、より多くの生徒が命の在り方について多面的に考えることができ、自他の命を大切に思い、精一杯生きようとする態度を育てることができたと感じている。

実践を振り返ってのワンポイントアドバイス

（1）　体験活動では直接的な触れ合いを重視すると、命のぬくもりを実感させることができる。

（2）　多様なプログラムを教育課程に位置付けることで、命を多面的に見つめることができる。

（3）　体験活動で取り上げにくい内容（死、喪失等）を道徳の授業で取り扱うことで、多面的な見方を補うことができる。

〈関連資料等〉

生徒の作文

「擬似喪失体験の感想」

私はこの活動を通して、命の大切さを感じました。自分の目の前で大切なものが奪われていく瞬間を体験して悲しくなったし、いつ、どこで、どんな時に大切なものがなくなるか分からない状態で生活していることに気付いて怖さを感じました。実際にそうなっているわけではないのに、リアルになくなった時のことを想像してしまい、涙が出ました。

今、一緒にいられる友達、家に帰れば支えてくれる家族の本当の大切さを感じました。いつも「なくなった時」のことを考えることは悲しくてできないけれど、後悔しないように自分の周りにあるものすべてを大事にしようと思いました。

「１年間の活動を振り返って」

１年間の「命の活動」は、あっという間に終わってしまったように思います。５月の妙高体験活動から始まった取組のなかで命についてたくさん学んできました。

命は大事だということはだれでも分かっていることなので、初はこんな授業はしなくても大丈夫と思っていました。しかし、学習を進めていくうちに、わたしの考えは間違っていることに気付きました。わたしは命について「生」という視点でしか考えていませんでした。しかし、授業では「生」だけでなく、「死」や「害」、「性」など様々な視点から命を見つめることができました。「死」について考えたとき、自分が今まで生死にまったく関心をもっていないこと

に気が付きました。分かったようなことを言っていたのに、生死についていざ考えようとしても、なかなか考えることができませんでした。その時、命ときちんと向き合おうと思い、それからの活動に関心をもって取り組みました。そうしていくうちに、やっぱり命はすごく大事で、なくてはならないものだと分かりました。この「大事」は　初の頃、考えていたような軽い「大事」とは違う、重みのある「大事」です。

いろいろな体験をとおし、今こうして生きていることや仲間といることを当り前と思わず、一瞬一瞬を大切にしていかなければならないと感じたし、命ときちんと向き合うことができて、自分自身大きく成長できたと思います。１年間の活動をとおして一番大事なものを考えることができてよかったです。

妊婦さんとの触れ合いの様子

「１年間の活動を振り返って」

命の学習は、最初は難しいテーマのように感じていたけれど、実際に活動に取り組んでみると、「学ぶ」「覚える」といったものではなく、「感じる」「気付く」といったものが多かったです。ただ、読んだり書いたりするのとは違った感覚で「命は大切」ということを、いろいろな角度、方向から気付かせてくれるような活動でした。命の尊さや大切さが頭の中に自然に刻み込まれていったと思います。

妙高アドベンチャーでの仲間づくり

【全体の指導計画】

命の大切さを学ばせる体験活動の月別年間指導計画

◎；中心的な体験活動

	① 命と死	② 命と性	③ 命を守る	④ 自己を見つめる	⑤ 命の誕生と成長	各　教　科	道　徳
4月				○仲間作り活動 （全学年）			
5月			○火災時のスモーク体験（避難訓練） １時間【総合】	◎妙高少年自然の家 （6時間）【総合】 3年（クラス単位） ○仲間作り活動 （1・2年）		1年理科 「植物の世界」（5・6月） 2年理科 「動物の世界」（4～6月） 3年理科　（4・5月） 「生物の細胞とふえ方」	
6月			○「看護体験」 2時間【総合】 (多目的教室)	○仲間作り活動 （全学年）		2年国語 「マドゥーの地で」（説明文） 3年社会 「人権と共生社会」 1年家庭科 「食生活を自分の手で」 （4～6月） 2年家庭科 「子どもの成長」（4・5月） 「わたしと家族・家庭生活」 （6・7月）	1年 「命の重さ」 2年 「命の輝き」 3年 「命の尊さ」
7月			○「薬物乱用や喫煙防止の断り方のロールプレイ」2時間【総合】（教室）	○仲間作り活動 （全学年）	◎「妊婦さんとのふれあい体験」【総合】 7日(金)2時間 （多目的教室） ☆「いのちの尊厳をつながり合って深める」17日(月) 講師：金森俊朗様 2時間（希望館）（全校生徒・保護者・地域住民）【総合】	1年国語 「大人になれなかった弟たち」（物語）：命と死 3年国語 「握手」（小説）：命を守る 2年家庭科 「わたしの成長と家族」 3年保健体育 「健康な生活と病気の予防」 3年美術 「作家の生涯」（作品鑑賞）	
8月					・いのちインタビュー ・赤ちゃんのおもちゃ作り		
9月				○仲間作り活動（全学年）1時間【総合】			
10月	◎「擬似喪失体験」 2時間【道徳】		◎保護者とともに学ぶ命の学習； 28日（土）2時間 命に携わる職業の方々による講座を開設【総合】 ○地震想定の避難訓練 1時間【総合】	○仲間作り活動 （全学年）	◎「赤ちゃんとふれあい体験」2時間 【総合】（希望館）	2年国語 「字のないはがき」 （随筆）：命を守る	2年 「命の重さ」 3年 「生命の尊重」
11月				○仲間作り活動 （全学年校） 1時間【総合】	◎「幼児理解とふれあい体験」 2時間【家庭科】 保育園訪問	3年社会 「裁判の種類と人権」	
12月			◎「命を守る」 消防署員による救急法の指導：3年生 2時間（体育館）	○仲間作り活動 （全学年）		3年社会 「公民－世界平和」	
1月				○仲間作り活動 （全学年）		2年社会 「第二次世界大戦と日本」	
2月	◎「命の体験旅行」 2時間【道徳】	◎ 「命輝く思春期」 1年；2時間 （助産師）【総合】 ◎16日（金）「命と性の学習」3年；2時間（教室） （助産師）【総合】	○不審者対策訓練 1時間【総合】	○仲間作り活動 （全学年）	◎「赤ちゃんの成長」 2時間 保健師　【総合】	1年保健体育 「心身の発達と心の健康」 2年保健体育 「環境と健康・傷害の防止」 3年保健体育 「健康な生活と病気の予防」	1年 「大切な命」
3月				○仲間作り活動 （全学年）			

・日常の生活空間から離れた場所で、体験活動を通して仲間との交流を図る。（仲間、自分に目を向ける）
・自己理解を深め、他者との交流感や自己効力感が高まるような体験活動を自然環境の豊かな妙高で行う。
・仲間づくり、学級づくりを主眼に置いた体験活動を行う。（全学年）

命を大切にし、他を思いやる心をはぐくむ道徳教育の充実

村上市立村上東中学校

1　活動計画（計画の概要と道徳の時間の位置付け）

道徳的価値観を高める体験活動

1年生【はるかの思いのリレー】

・動植物を栽培・飼育することを中心とした体験活動

2年生【命のリレー】

・命を生み出したり守ったりすることを中心とした体験活動

3年生【みんな生きている】

・幼児・お年寄り・妊婦さんとの触れ合いを中心とした体験活動

命について考える道徳の時間

命の尊さ・はかなさ を考える道徳の時間

○ 出版物等を活用した道徳の時間

・「**はるかのひまわり**」物語:日本放送出版協会
・「**はるかのひまわり**」
　加藤いつか:ふきのとう書房
・「**あの日を忘れないはるかのひまわり**」
　指田和子:PHP研究所
・「**スクープ写真**」私たちの新しい生き方
　新潟県中学校長会編:新学社
・「**天井が明るい**」中学生の道徳:暁教育図書
・「**ブラックジャック二人の黒い医者**」
　かけがえのないきみだから:学研

命の誕生・神秘性 を考える道徳の時間

○ 資料を活用した道徳の時間

・「**暗闇で知った自然の働き**」
　かけがえのないきみだから:学研
・「**暗闇で知った自然の働き**」
　かけがえのないきみだから:学研
・「**池にわいた稚魚**」
　かけがえのないきみだから:学研
・「**命の輝き**」新しい生き方:新学社
・「**あなたはすごい力で生まれてきた**」
　中学生の道徳:暁教育図書
・「**ライオンと子犬**」道しるべ:精進社

命の連続性・有限性 を考える道徳の時間

○ 資料を活用した道徳の時間

・「**お母さん,ぼくが生まれてごめんなさい**」
　新しい生き方:新学社
「**生きるつとめ**」中学生の道徳:正進社
「**八月六日**」新しい生き方:新学社
「**決断!骨髄バンク移植第1号**」
　明日をひらく:東京書籍
「**お母さんへ**」かけがえのないきみだから:学研
「**自分の番　命のバトン**」
　中学生の道徳:暁教育図書

2　活動の概要（体験活動の内容と活動の流れ）

当校では、命の大切さを学ばせるためには、心の働きを体験的に学ばせることが大切であると考えている。感動や神秘、畏敬の念といった、心の働きに訴えることをねらいとして活動を設定した。体験により感じたことをとおして、命を大切にしようとする心情をはぐくむことを目的としている。

(1)　【はるかの思いのリレー】

中学校１年生←→小学校

ひまわりの栽培活動を設定した。この活動は、単なる栽培活動ではなく『はるかのひまわり』と名付けられた阪神淡路大震災で亡くなった少女の実話から広がった活動の一環である。一つの命を失ったという悲しみの大きさや残された家族の心、この活動を続ける人々の願いを共有することを目的としている。

1年生　体験活動の概要図

(2)　【命のリレー】

中学校２年生←→小学校

生き物の養育にかかわる体験活動として鮭の人工ふ化活動を設定した。当校の立地する村上市は三面川という恵まれた地域教材がある。鮭の一生という、命をつなぐの生態の一場面を体験し、命の神秘を感じさせることを目的としている。

2年生　体験活動の概要図

(3)　【みんな生きている】

中学校３年生←→小学校

人とかかわる体験活動として、乳幼児や妊婦さんとの交流、介護などの社会奉仕活動、高齢者との交流などを設定した。命に触れる様々な体験活動を通して「生きている」ことを実感できるようにすることを目的としている

3年生　体験活動の概要図

3　道徳の時間による取組

(1)　主題名

生命の尊重

(2)　ねらいと資料（出典）

命の大切さやありがたさをしっかりと見つめ、その尊さを理解した上で、自他の命の尊重に努めようとする態度をはぐくむ。

資料名「決断！骨髄バンク移植第１号（抜粋）」出典：東京書籍①明日をひらく

(3)　主題設定の理由

①　体験活動との関連

３年生では「みんな生きている」というスローガンのもとに、幼児、お年寄り、妊婦さんとの触れ合いを中心とした体験活動を展開する。これらの活動に取り組むに当たり、命の連続性・有限性について考えを深めることをねらいに、本主題を設定した。

②　高めたい価値観について

命を尊ぶということは、かけがえのない命をいとおしみ、自らもまた多くの命によって生かされていることに素直に応えようとする心情の表れといえる。そのような心情をはぐくむためには、まず自己の尊厳、尊さを深く考えることが大切である。生きていることのありがたさに深く思いを寄せることができれば、自分以外の命をも同様に考え、自他の命を大切にしようとする心をはぐくむことにつながると考える。

③　生徒の実態について（男子15名　女子15名　計30名）

命の大切さについて、生徒のとらえを把握するために、人の死について思いつくことを各自に記述させた。ノートの記述からは、軽率な気持ちで「死ね。」と言っていた生徒がそれを反省するものや、肉親を失った自分の辛い過去を記述するものなどが見られた。しかし、命の重さを実感していないと思われる記述をした生徒も数名いた。

④　事前アンケートと考察

次のような質問により、事前アンケートを実施した。「あなたが友達と一緒に買い物に出かけると、デパートの入り口でパンフレットを渡されて、骨髄バンク登録のお願いをされました。あなたは骨髄バンクへ登録しますか。また、それはなぜですか。」

	助けてあげたいから	ドナーがかっこいいから	友達も登録するから	なんだか痛そうだから	自分には関係ないから	その他
登録する	10人	0人	0人	0人	0人	2人
登録しない	0人	0人	0人	8人	1人	6人

白血病と骨髄移植について簡単な説明をした後、上記のアンケートを行った。登録すると答えた生徒と登録しないと答えた生徒は約半数ずつであった。登録しないと答えた「その他」の理由の中には家族の同意について触れる生徒もいた。

※本アンケートのねらいは、骨髄バンクへの登録を促すものではなく、授業で使用する資料について、生徒の意識を事前に把握するためのものである。

資料の中では、骨髄バンク登録者である主人公が骨髄提供者として選出されたとき、患者さんの命を考えるとすぐにでも提供したいという気持ちと、大きな手術を受けることの危険や家族のことを考え断りたいという迷いのなかで決断していく姿が描かれている。幅広く考えを出し合うことで、自他の命を大切にしようとする心をはぐくみたい。

（4） 展開

	学習活動	発問（○）及び予想される児童の反応（・）	指導上の留意点
導入	本時のめあてを知る。	○あなたが今までに生きていてよかったなあと思った経験はありますか。 ・交通事故で生き延びた・病気が回復した　・おいしい物を食べたなど ○今日は日本で初めて骨髄を提供した田中さんをとおして、命について考えてみましょう。	・受容的に生徒の考えを聞く。
展開	資料を読んで、主人公の気持ちを中心に追求する。 中心発問を通して生徒の多様な価値観を引き出す。 出された生徒の価値観を類型化し、生徒に現在の自分の価値観を知らせる。 多様な価値観に触れ、より高い道徳的価値の存在を知る。	**資料を配付し一読し、登場人物の関係を整理する。教師が範読する。** ○最後の検査の日、病院に向かう足取りが重かったとき、どんなことを考えていたと思いますか。 ・人の役に立つことだからやらないと。 ・子どもにもやると言ってしまったしな。 ・大丈夫かな。 ・だれか分からない人に提供する必要があるのか。 ・あんなのを10回も刺すのが嫌だな。 ・痛いだろうな、やめたいな。 **主人公の迷いの内容を分類し、自分の考えにネームプレートを貼らせる。** ○麻酔から覚めて担当医から『本当にありがとうございました。』と言われた時、どんなことを思いましたか。 ・やってよかった。　・相手の人も元気になってくれるといいな。 ・一人の命を救うことができた。　・子どもとの約束を果たせた。 ◎ **二人で握手をして抱き合いながら、田中さんはこれからどんなことをしていきたいと考えていたと思いますか。** ・きっと自分を見習って一人でも多くの人がドナーになってくれる。 ・これからも後悔しないように精一杯活動していこう。 ・人の命は大切だからこれからもバンクの活動をがんばろう。 ・もっと多くの人からほめられるようにしよう。 ・人を助けるのは当たり前だから、もっと多くの命を助けていこう。 **主人公の考え、内容を分類し、自分の考えにネームプレートを貼らせる。類型的価値観を示し、線でつなぐ。** **自　律**：もっと多くの命を救うために進んで呼びかけていこう。 **規範意識**：人の命を助けることは当然のこと。これからもがんばろう。 **手　本**：がんばっていけば、自分を見習う人も出てくるかもしれない。 **自己満足**：後で後悔しないように、やれることを一生懸命やろう。 **他　律**：もっとみんなから喜ばれるようにがんばっていこう。 ○これまでに人の命にかかわったことや、動植物の命を助けたことなどはありませんか。 ○いつごろのことですか。どんなことですか。 ○命について学習した今、そのときのことをどう思いますか。 ○これから自分と人の命について、どのように考えていこうと思いますか。	・資料配付 ・主人公の迷いの理由について考えさせる。 ・満足感の理由について考えさせる。多い場合は最も大きな理由に絞らせる。 ・やってよかったと考える生徒が多いと予想される。そう考える理由についても掘り下げていく。
終末	教師の説話を聞く。	命を感じた経験・胎児の話・命に触れる感動・命の重さは変わらないこと ・生きているだけですばらしいなど 本時の授業をとおして考えたことを「心のノート」のP69に記述する。	・教師の体験を交えて話す。

(5) 実践の概要と考察

生徒は、「命が大切」であることを理解している。しかし、健康状態に恵まれ、食生活をはじめ生活環境が整っているため、命の喜びを感じる経験は少ない。手術後の田中さんの心情から、自分も人によって生かされているありがたさについて考えを及ばせている生徒が多かった。両親はもちろん、友人をはじめとする周囲の人々が与えてくれる環境で人は生きられるという、普段は当たり前としか思えないことに着目することから、命の大切さについて考える視点が明確になり、以後の体験活動に生かされていく。

道徳の授業の板書

4 体験活動と道徳の時間との関連についての考察

「命が大切なのは当たり前のこと」と浅くとらえてしまっている生徒が多く見られた。このような生徒は、これまでの経験や体験が少なく、命というものに対して実感がもてないことが多い。そこで、経験や体験と結び付けて道徳的心情を深めていく必要があると考え、体験活動と道徳の授業とを関連付けて展開していくことを計画した。この関連付けにより道徳の授業と体験活動の間に相乗効果が生まれ、命を大切にする心をはぐくむ道徳教育の充実に効果があったと考える。

道徳の授業の様子

また、道徳の授業と体験活動とを関連付けるために工夫した点は、内容の綿密な関連付けである。一言に生命尊重といってもその内容は多義に渡る。設定した体験活動の内容がどのような経験となるのか、道徳の授業がどのような心情を育て価値観を高めるのかを考え、内容を細分化し、【命の尊さ・はかなさ】【命の誕生・神秘性】【命の連続性・有限性】の３つのブロックに分け、体験活動と道徳の資料の精選を図り、発達段階を考慮して学年別に配列した。これらの工夫により体験活動の設定、資料活用のポイントを明確化することができた。

体験活動の様子

実践を振り返ってのワンポイントアドバイス

（1）　体験活動の内容と道徳授業の命にかかわる内容項目を関連付けて学習を進めることにより、相乗効果が期待できる。

（2）　「命の尊さ、はかなさ」「命の誕生、神秘」「命の連続性、有限性」など指導すべき項目を整理することで、体験活動と道徳の資料の精選ができ、ポイントを明確にすることができる。

（3）　より効果的に学習を進めるには３年間を見通した計画が必要である。各学年の指導内容の重複を避けることができ、発達段階に合わせたステップアップが可能となる。

〈関連資料等〉

体験活動性と感想抜粋

「はるかのひまわり」栽培にかかわる体験活動から

・この活動をして命の大切さをもう一度考え直してみようと思いました。今度栽培する人にはきれいで大きなひまわりを咲かせてほしいのと、命の大切さを改めて考えてほしいです。
・このひまわりは、はるかさんの形見みたいなものなので、大切に育ててきたつもりです。これから、生きているものすべてを大切にしていきたいです。
・このひまわりに、はるかさんの命が宿ったみたいなものです。ひまわりの命とはるかさんの命が一緒になって生きていると思っています。花にも命が宿っています。この世にあるものには全部に命があって１つ１つが大切なものだと分かりました。すべてのものを大事にしていこうと思います。

郷土村上のシンボル「鮭」にかかわる体験活動から

・川に放したサケが4年たって元気に三面川に戻ってきてほしい。
・卵の中に大きな目ができていて動いているのがかわいかった。
・サケの赤ちゃんはしばらくのあいだ何も食べずに大きくなるのはすごいと思った。
・1匹のサケからものすごく多くの卵がふ化するのに、4年後に戻って来ることができるのはそ

のうちの2〜3匹ということを知り、自然ってきびしいなと感じた。
・受精という生命誕生の作業を体験して、命とは不思議なことを繰り返しながらつながっているんだなと思った。

命に触れ、命を守ることにかかわる「みんな生きている」体験活動から

・医療現場の人たちは本当に真剣に仕事に取り組んでいる事がわかった。とても責任の重い大変な仕事だと感じた。
・老人ホームのお年寄りとの交流会に行って、思ったよりみんな明るく元気なのに驚いた。「みんな今を楽しんでいます」という話にちょっと涙が出そうになった。
・保育園の園児とのお昼寝で、添い寝をしているとき、とてもかわいい寝顔で温かくて本当に大切にしなくちゃと思った。
・妊婦の方の体験談を聞いて流産という悲しみを乗り越えてがんばる姿に涙が出た。元気な赤ちゃんが産まれてほしい。

体験活動新聞記事抜粋

手から感じた輝く命の誕生 上

中学生がサケ人工授精

村

新潟日報平成19年11月21日付
新潟日報社　提供

介護と看護学んだよ

村上東中生徒が1日体験

厚生連 瀬波病院で初の試み

村上新聞平成19年12月9日付

生きることのすばらしさを実感し目標をもって生活する生徒の育成
～「立志式」を通しての実践～

川口町立川口中学校

1　活動計画（計画の概要と道徳の時間の位置付け）

ねらい

理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていこうとする意欲を高める。

体験活動の概要（２学年）

立　志　式	・生徒全員の決意発表 ・パネルディスカッション
職業体験活動	・体験依頼 ・地域での職業体験 ・体験レポートの作成
修学旅行での職場訪問活動	・訪問依頼 ・東京近郊での職場訪問 ・訪問レポートの作成

道徳の時間

生きていることのすばらしさを感じ取り、周囲の人々の愛に感謝し、よりよく生きようとする心情を育てる。

資料「お母さんへの手紙」

道徳の時間

命の大切さと、多くの人に支えられていることを理解し、よりよく生きていこうとする気持ちを育てる。

資料「ライフボード」

2　活動の概要

（1）　体験活動と道徳の時間との関連

生きることのすばらしさを実感し目標をもって生活する生徒の育成を目指すために、既存の体験活動と道徳の時間との関連を図った。2学年においては、キーとなる体験活動として、「立志式」、「職場体験」、「修学旅行での職場訪問」を選定し、体験活動の事前・事後に道徳の時間を設定した。この体験活動と道徳の時間とを関連付けることにより、体験活動でのとらえを道徳の時間で話し合ったり、道徳の時間での学びを体験活動に生かしたりできるようにした。

(2) 立志式

当校では２年生になると、生徒一人一人が将来を見据えよりよく生きていこうとする心構えをつくるために、全員で決意発表を行っている。今年度は、「生きることの素晴らしさを実感し、目標をもって生活することができる」という主題を踏まえ、決意発表に加え、身近な人々の生き方に学ぶパネルディスカッションを開催した。また、立志式の直後の道徳の時間でよりよく生きることについて考えさせることによって、立志式で発表した決意を、実生活につなげたいと考えた。

① 立志式　第１部〈14歳の決意発表〉

事前準備としてアンケートを実施し、生徒の実態把握に努めるとともに、生徒の希望や夢、本音の部分を引き出し、これを基にしてじっくりと考える時間を設定した。生徒自身が自分の性格や適正を考え、将来を見据えることにもつながった。

当日は多くの生徒が自信をもって自分の夢や、自分にかかわってくださった方々への感謝の意を表す場にもなった。

決意発表の様子

② 立志式　第２部〈パネルディスカッション〉

県内で活躍している元オリンピック選手、公務員、介護福祉士がそれぞれの視点で「生き方」についてディスカッションを行った。事前に打合せを行ったことで、生徒の思いに応えながらパネラーが熱く語ってくれた。その姿を真摯に受け止めていた生徒が多かった。生徒一人一人が、自分の将来について、さらに考えを深めることができた。

パネルディスカッションの様子

③ 立志式を通して

活動の振り返りから、「自分が少し、大人になったという気持ちを忘れず、一日一日を過ごしていきたい。」、「人は一人では生きられない。支え合っていることを改めて実感することができた。」など、自分の将来について真剣に見つめ、前向きに生きることの大切さや、周囲の人とのかかわりからはぐくまれている自分の命の大切さについて気付くことができた。

活動のまとめとして、記念文集「14歳の私～親から子へ」を作成した。保護者には「我が子に対するメッセージ」の執筆を依頼した。今後はこれを活用し、命を大切にする心を一層はぐくんでいく。

3　道徳の時間による取組

(1)　主題名

命の輝き

(2)　ねらいと資料（出典）

命を大切にしようとする心や周囲の人々への愛に感謝する心をはぐくむとともに、生きることのすばらしさを感じ取り、よりよく生きようとする心情を育てる。

資料名「お母さんへの手紙」（出典「私たちの新しい生き方２」新学社）

(3)　主題設定の理由

資料「お母さんの手紙」に出てくる「佐江子」は重い心臓疾患をもち、日常の学校生活でさえ困難な状況にあるが、献身的な母の愛情を受け、前向きに成長する。３度目の大手術を前に、母にあてて母との数々のエピソードを交えて、母の愛や周囲の人々の支えで明るく幸せに生活できたことを手紙に書く。365×14回分の「ありがとう」と一緒に手術を「がんばろう」の言葉で手紙をしめくくる。

中学生の時期には、毎日が健康に過ごせていることが多いため、自己の命に対するありがたみを感じている生徒は少ない。自らの生き方を懸命に模索しながらも、多分に自己中心的になったり、感傷的になったりするのも特徴である。また、自分を陰で支えている周囲の人々の愛情に気付かず、反抗的な言動を示すこともある。このような年代の発達段階を踏まえ、自分の命を大切にし、自らの生き方でその命を輝かせていくためにはどうすべきか考えを深めさせたい。また、自分を支えてくれている周囲の人々への感謝の気持ちを大切にしながら、これからをどう生きるべきか考えを深めさせたい。

立志式を通して、多くの生徒が生きることのすばらしさや目標をもって生活することの大切さに触れ、命の大切さを感じる心の高まりが見られる。命の大切さについて理解をさらに深め、内面化を図っていきたい。体験活動を振り返りながら登場人物の心情を見つめることを通して価値の自覚をうながし、道徳的実践力の育成につなげたい。

本時においては主人公の生き方を中心に、次のような展開を構想した。

① 立志式を終えた今、日常生活について改めて振り返る。
② 資料から「佐江子」の境遇や生活を知る。
③ 「佐江子」と「母」とのエピソードを基に、二人の心情を考える。
④ 自らの価値観と照らし合わせて主人公の生き方を考える。
⑤ 今を生きる自分を振り返る。
⑥ 次の体験活動に向けた意欲を高める。

（4） 展開

	学習活動	発問（○）及び予想される児童の反応（・）	教師の支援
導入	1　立志式を終えた今、日常生活を内省する。	○立志式記念文集を読んでみましょう。 ・原稿づくりは大変だったな。 ・決意を忘れずに目標に向けてがんばろう。 ○今日、目が覚めたとき、あなたは今日という日にわくわくしましたか。 ・もう少し眠っていたかった。 ・部活が楽しみだけど、わくわくしない。	体験活動や日常を想起させるため、記念文集のコピーを渡して、日常について問い掛ける。
展開	2　主人公の境遇や生活をつかむ。	○「佐江子」のおかれている境遇から何を感じましたか。 ・かわいそう。 ・大変だろうけどきちんと生活している。 ・自分は恵まれている。 ・一生懸命生きる努力をしている。	主人公の置かれた条件・情況を押さえるために、指名して生徒の意見を引き出す。
	3　主人公の手紙から心情を考える。	○あなたが一番心を打たれた主人公と母とのエピソードは何ですか。 ・友達への挨拶。 ・一人で遠足に行けたことを、喜ぶ母。 ・黙って手を握る。 ・「いい夢を見なさい」。 ・手術に「がんばれ」。	精一杯に生きようとしている主人公の生き様を把握できるように、生徒の意見を板書する。
	4　自らの価値観と照らし合わせて、主人公の生き方を考える。	○「佐江子」の生き方について何を感じましたか。 ・常に精一杯努力しようとする姿に共感できる。 ・生きようとする前向きさに感動した。 ・つらい人生でも、その中で前向きに生きている姿に感動した。	主人公の生き方を感じ取らせ自分の生き方について考えられるよう、生徒の意見を取り上げて、話し合いを深めていく。
終末	5　主人公の生き方に学び、今を生きる自分を振り返る。	○命を大切にし、自らの生き方でその命を輝かせていくためにはどうするべきでしょうか。 ・人はだれでもいつかは死ぬ。しかし、生きるということは皆違う。今を輝かせたい。	自己の生き方を見つめ直すことができるよう問い掛け、しめくくる。

(5) 実践の概要と考察

道徳授業の様子

生徒は道徳の時間での学びを基に、授業終末部分で日常生活を振り返りながら自らの生き方について考えをまとめた。ワークシートには、「自分は今を大切にしていない。今でなくてもできると思って投げ出すことが多い。もっと今をしっかり大切にしたい。」、「自分の命を大切に生きたい。そして、このような気持ちを自分の行動で示せる人になりたい。」などの意見を書いていた。じっくりと時間をかけながら自分の感情を文章化したことで、真剣に自己の内面を見つめ、主体的に道徳的価値を自覚していくことができた。また、立志式の中で感じたことを道徳の授業において話し合うことによって、生きることのすばらしさや命の大切さについての認識を深めることができた。

命の尊さや輝きを感じ、命を大切にしていくという心の高まりを内面化していくためには、今後も系統的な体験活動と関連付けた道徳の時間の実践が必要である。

今回の道徳授業は、次の職業体験において、自己の将来を見据え、よりよく生きていこうとする心情を高めていくため、事前の道徳授業としても位置付けている。今後は、職業体験を通してよりよく生きることの大切さに触れ、事後の道徳授業において価値を深め内面化を図っていきたい。また、学年の発達段階を踏まえ、３年間を見通した計画を検討していく。

4　体験活動と道徳の時間との関連についての考察

工場見学や職業体験をした生徒は、働いている人の姿を見たり自ら労働を体験したりすることで、働くことの意義、辛さなど多くのことを学んでくる。職場には、生き生きと働く人の姿があり、生き生きとした命の輝きがある。これまではこのような体験を道徳教育に取り入れてきたものの、道徳の時間と関連させながら道徳的価値の内面化を図る指導は不足していた。

立志式と、事後の道徳の時間によって、生徒は日常生活を率直に見つめ、よりよく生きようとする気持ちを強めていた。また、この学びを基に、次の職業体験に向け、生徒一人一人が将来を意識しながら職場体験場所を考え、目標を主体的に設定していこうとする学びの姿が多く見られるようになった。

体験活動と関連する道徳の時間の様子から考察すると、命を大切にしていこうとする心情が高まっている様子が伺える。

今後は、体験活動においてより一層生命観を豊かにするための活動内容の充実、事前、事後に関連する道徳授業の充実、生徒の変容を見取る手立てや評価の工夫を続けていく。

実践を振り返ってのワンポイントアドバイス

（1）　体験活動で感じ取ったことを、道徳の時間で深く考えさせることにより、道徳的価値を深めることができる。

（2）　既存の体験活動を道徳教育の視点からとらえ直し、系統的・効果的な指導の方向性を明確にすることで、ねらいに迫る確かな学習を進めることができる。

乳幼児との触れ合いをとおして、命を守り育てる責任を考える

上越市立城北中学校

1　活動計画

月	体験活動の概要（3学年）
5	○幼児に関する学習（家庭科）
6	**○幼稚園での幼児との交流**
9	○産婦人科医講演 ○「A Mother's Lullaby」（英語科）
10	**○赤ちゃん触れ合い体験** ○生と性に関する助産師講話
11	○スタートライン公演 ○子どもフォーラム
12	○「生き物として生きる」作文・スピーチ（国語科）
1	○「命を守り育てる人」としての決意や提言を全校に発信

道徳の時間

人は支え合って生きていることに気付き、自他の存在を大切にしようとする心情を育てる。

資料「八月六日」

道徳の時間

自他の生命の重さについて考え、「社会全体で一人一人の命を守ろう」とする思いを育てる。

資料「赤ちゃんポストは必要か」

道徳の時間

「命をつなぐ」ことの意味について考え、自他の生命を守り育てようとする心情を育てる。

資料「臓器提供を考える」

2　活動の概要

（1）幼児との交流に対する意欲を高める

普段の生活の中で乳幼児と触れ合った体験をもつ生徒は少なく、例年の活動の様子を見ると、交流活動に消極的になりがちな生徒もいた。毎年、家庭科の授業で乳幼児について学習しているが、今年は育児休業中の職員の協力を得て、実際の育児の様子や母子の交流の様子を語ってもらった。それを踏まえて、実際の活動場面で、どんなことをしていったらよいかをグループごとに考えたり、一緒に遊ぶためのおもちゃを作ったりした。

（2）道徳の時間や教科の時間により、自他の存在の大切さに気付かせる

幼稚園での交流活動は、①幼児の特性を知ること②幼児と遊ぶことの二つの目的で行った。②については、初めから積極的に幼児とかかわる生徒もいたが、なかなか自分から声を掛けられず、あまりかかわれない生徒もいた。しかし、幼児の方からの働き掛けもあり、ほとんどの生徒が幼児と楽しく会話をしながら十分に遊ぶことができた。①については、生徒一人一人の気付きがあり、幼児の素直さや元気さをかわいらしいと感じた生徒が多かった。

この活動を受けて、道徳の時間において、一人一人にはその人を支えている親や周囲の人の愛があることを考えさせた。また、英語の授業でも、戦争中の母の愛を扱った教材（A Mother's Lullaby）を通して、親子の心のつながりについて考えることができた。

(3) 母子との触れ合いや助産師講話により、自他の命のかけがえのなさに気付く

「赤ちゃん触れ合い体験」は、毎回約20組の母子が来校し、生徒と触れ合う体験活動である。生徒も母子も７組のグループに分かれ、市の助産師さんや保健師さんたちから、各グループに付いていただき進行や生徒に対するアドバイスをいただいた。この活動に取り組むに当たり、赤ちゃんとの触れ合いに対して、戸惑いを感じている生徒が多かった。そこで、事前に、グループごとに母親に対する質問や赤ちゃんを笑わせる方法について考えたり、赤ちゃん人形を使った抱っこ練習をしたりして、活動に対する具体的なイメージをもたせた。当日は、「赤ちゃんを笑わせよう」という活動から入って生徒の気持ちをほぐし、母親や助産師さんからリードしていただきながら、抱っこやおんぶなどをして赤ちゃんと触れ合った。最後に、母親から中学生へ一言ずつ話していただいた。すぐ泣く赤ちゃんに戸惑うなど、かわいいだけではない赤ちゃんの現実を知る一方で、常に優しい笑顔で赤ちゃんに寄り添う母親の姿に、親の愛情を感じ取ることができ、生徒にとって貴重な体験となった。最後の母親たちからのメッセージでは、「体を大切にしてくださいね」などの温かい言葉をもらい、自分もこんな愛情に包まれて育ってきたのだと感じる生徒が多かった。

赤ちゃんをあやす生徒たち

体験の後、助産師さんから一人一人がかけがえのない命をもっていること、人は命のリレーの中で生まれ、またその命をつないでいかなければならないことを話していただいた。体験直後のその言葉は、生徒たちの心に素直に響いていった。

(4) 「赤ちゃんポスト」について考えることにより、「命を守り育てる責任」について考える

体験活動を受けて、道徳の時間に幼い命が大切にされていない現実もあることを取り上げた。「赤ちゃんポスト」に対する考えを交流しながら、幼い命に対して、親はもちろんであるが、社会全体にも守り育てる責任があることに気付いていった。生徒は自分や社会ができることを真剣に考えていた。（３　道徳の時間による取組参照）

(5) 「命をつなぐ」とはどういうことかについて考え、自他の命を守り育てることについて自分の考えをまとめる

「赤ちゃんポスト」の授業の後に、国語科の授業で「生き物として生きる」という教材を扱った。人間が思いのままに生き物を作り替え、人間をも遺伝子操作によって作ろうとしている現実に警鐘を鳴らす内容である。この学習のまとめとして、一人一人が生き物を作ることに対する考えをまとめ、発表した。

それを受けて、道徳の時間で「臓器提供」というテーマを扱った。臓器提供しか生きる道のない患者や家族の思いとともに、提供者の家族の苦悩も知らせ、「人が人を救うことの意味」について考えさせた。最後に、一年間の命に対する学習のまとめとして、「命を守り育てる人」としての決意や提言を書き、掲示した。命をどうとらえ、どうしていくかを表明することにより、一人一人が「命を大切にしよう」という思いを強くすることができた。

3　道徳の時間による取組

(1)　主題名

生命の尊重

(2)　ねらいと資料（出典）

自他の生命の重さについて考え、「 社会全体で一人一人の命を守ろう 」とする思いを育てる。

資料名「赤ちゃんポストは必要か」

（「医療法人聖粒会慈恵病院」ＨＰ、厚生労働省ＨＰの資料を使った自作資料）

(3)　主題設定の理由

「赤ちゃんふれあい体験」や「助産師講話」により、赤ちゃんが愛情深く育てられていることを感じた生徒たちに、現実にはそのような愛情を受けられないでいる赤ちゃんがいることを知らせ、命に対する思いを深めさせたい。

そのために、「赤ちゃんポスト」を取り上げた。「赤ちゃんポスト」は正式名称を「こうのとりのゆりかご」といい、熊本市の医療法人聖粒会慈恵病院が平成19年５月10日から設置したものである。虐待や遺棄により死亡する乳幼児を見かねて、命を救えればという思いで設置されたが、「赤ちゃんポスト」という名前が先行し、賛否両論の中、続けられている。この「赤ちゃんポスト」に対して率直な思いを伝え合うことにより、今の日本社会がもっと命を大事にしなければならない現状にあることに、生徒たちが気付いていくことを期待した。

主題の深化を図るために、２時間扱いで行う

①　**「 赤ちゃんポストは必要か 」について話し合う（１時間目：本時）**

賛成か反対かの立場を選ばせ、意見交換をすることにより、よい点や問題点を明確にさせる。

↓

☆ 「命を守る」ことの大切さについての考えを深めさせる。

②　ニュース記事を通して、「幼い命を守るにはどうすべきか」について考える。（２時間目）

・新生児遺棄や殺害事件の新聞記事を読み、感じたことを話し合う。

・こうした事件を減らしていくためにはどうしたらいいのかを話し合い、一人一人が自分の考えをまとめる。

↓

☆ 生まれた命は「だれかが守る」ではなく、社会みんなで守り育てなければならないこと、自分も「命を守り育てる人」であることに気付かせる。

「赤ちゃんポスト」については、聞いたことがあっても、詳しくは知らない生徒が多い。そこで、資料を用意し、「赤ちゃんポスト」に関する知識をもたせた上で話し合うようにする。また、話合いの後には、設立者の思いを綴った文章を読み、「命を守る」という目的から設立されているという認識をしっかりともたせる。

（4） 展開

	学習活動	発問（○）及び予想される児童の反応（・）	教師の支援
導入	1　「赤ちゃんふれあい体験」を思い出し、本時の課題を確かめる。	○「赤ちゃんふれあい体験」で、みなさんはどんなことを感じましたか。 ・抱っこやおんぶをしたとき、すごい命の重さを感じた。 ・親がどれだけ子を大切に思っているかが分かり、自分も親に感謝したい。 ○平成12年11月20日～平成16年12月31日までの約４年間で「０歳児83人」。この数字は何の数字だと思いますか。 ○「赤ちゃんポスト」について知っていることを挙げてみましょう。 ・赤ちゃんを一時的に預ける場所。 ・赤ちゃんを育てられない人が、赤ちゃんを託す場所。 ・病院に設置されている。 ○今日はこの「赤ちゃんポスト」は必要なのかについて考えましょう。	・感想をプリントにするなどして、活動から得た思いを思い出させる。 ・少しだけ考えさせた後、この数字は虐待による死亡数であることを伝える。 ・よく知らない生徒のために、「こうのとりのゆりかご」の説明をする。
展開	2　「赤ちゃんポスト」について賛成・反対の理由を考え、話し合う。	○みなさんは「赤ちゃんポスト」の設置に賛成ですか、反対ですか。 ○賛成・反対の理由を考え、話し合いましょう。 〈賛成〉・せっかく生まれた命だから、救ってあげたい。 〈反対〉・育てられないなら、産むべきではない。赤ちゃんを捨てる場所を作ってはいけない。	・賛成、反対、迷うの三つの立場から選ばせる。 ・半々くらいなら、討論する。意見が偏るようなら、賛成・反対どちらの考えも出させ、それについて反論し合う。 ・深まらなければ世論の意見を紹介する。
終末	3　設置に込められた思いを知り、１時間を通して考えたことをまとめる。	○実際に「こうのとりのゆりかご」という名称で設置した慈恵病院が、どんな思いで設置したのかを読みます。 ○この１時間を通して考えたことをまとめましょう。	・理事長の言葉を読み「命を救いたい」という思いから設置されたことを伝える。

(5) 実践の概要と考察

初めは軽く賛成・反対の意見を述べていた生徒も、グループでの話合いが進むうち、個々の命や人生に対する考えまで語り合うようになり、自分の考えが揺さぶられたり、より深まったりしていく様子が見られた。賛成の立場では、「命の大切さ」を一番に考える意見が多かったが、反対の立場では、「親の責任」「子どもにとっての幸せとは何か」を問う意見が多かった。話合いの中で「命を軽く考えているのではないか」という日本の社会の問題点を指摘する声もあがり、次の活動へつなげるきっかけとなった。

話合いが充実するためには、生徒が「赤ちゃんポスト」に対する知識をある程度もっていることが必要である。そのため、慈恵病院のＨＰを利用した資料を用意したり、生徒の疑問点に教師が答えたりしながら、活動を進めた。また、多様な視点から考えさせるために、世論の反対意見・賛成意見をまとめたものを提示した。いろいろな考えを広く知ることによって、考えを深めることができた。

この授業では、あえて一つの結論にまとめることはせず、一人一人の生徒が感じたことを書いて終わりにした。この時間をとおして、生徒は次のような感想をもった。

・命が救われても、「捨てられた」という事実を知ったときその子はどうなってしまうのだろう。
・育児に対して悩んでいる親がたくさんいるのだから、ポストが必要だ。
・簡単に子どもを捨てる無責任な親が増えるという意見もあるが、きちんと育てないのも無責任だ。虐待をするくらいなら、預けた方がいいのではないか。

こうした思いを次時の授業につなげた。

次時の授業では、ゴミ袋に入れられてゴミ収集所に捨てられていた赤ちゃんの新聞記事を取り上げ、このような悲惨な出来事をなくすためにどうしていったらいいのかを考え、話し合った。「自分が親になったら……」という視点から考える生徒も多く、他人事ではなく身近なこととととらえて真剣に考えていた。

これらの活動を踏まえて、３学期に「命を守り育てる人」としての個々の決意や提言をまとめ、掲示することをとおして、全校生徒の命に対する意識の高まりを図っていきたい。

4　体験活動と道徳の時間との関連についての考察

生徒たちは乳幼児との触れ合いをとおして、過去の自分を振り返り、自分の成長を感じることができた。そして、自分の成長を支え見守ってくれた存在に改めて思いを馳せ、自分の生に対する感謝の思いをもつことができた。そんな生徒たちに、道徳の時間で、命が大切にされていない現実があることを見つめさせることにより、一人一人の「命の大切さ」に対する考えを深めさせることができたと考えている。

例えば、「赤ちゃんふれあい体験」で母親の愛情の深さを感じ取った生徒が、道徳の時間に「母親はとても大変な思いをして子どもを産むのだから、子どもを簡単に物扱いして預けることはないのではないか」と考え込む姿があった。体験活動があったからこそ、短絡的に「命を物扱いしている」と考えず、様々な角度から命を考えることができたのであろう。

体験活動と道徳の時間を関連させた指導を行ったことにより、社会に対する問題意識をもたせることもでき、将来の自分の生き方について考えさせることができた。

実践を振り返ってのワンポイントアドバイス

（1）　地域の人材を生かした活動を行うことにより、体験を身近なものと感じさせ、道徳的実践意欲を高めることができる。

（2）　体験活動で感じたことを「道徳」の授業で取り上げることにより、命の大切さに対する考えを深めることができる。

（3）　現実に起きている事件（虐待、遺棄等）を道徳の時間で取り上げることにより、問題意識が高まり、「自分はこれからどう生きていくか」について真剣に考えさせることができる。

〈関連資料等〉

道徳の授業を通しての生徒の考えの変化

【賛成→反対へ】

○赤ちゃんが助かるのならあったほうがいい。

↓

確かに助けることができるが、その分無責任な親が増えてしまうのではないか。

○赤ちゃんを死なせるより、生きていた方がいいに決まっている。

↓

赤ちゃんをポストへ預けるより、預けなくていいような手助けをしていく方がよい。物心がついたとき、親に捨てられたと認識して、恨みをもつような人になってしまってはいけない。

【迷う→反対へ】

○自分の子は仕事を休んででも自分で育てなきゃいけないと思うけど、かといって、育てられず赤ちゃんが死んでしまうのはいやだ。

↓

育てられないのなら産まなきゃいいと思ったし、赤ちゃんの命を甘く見ている気がする。自分の子を自分で育てられないのなら、最初から子どもをつくってはいけないと思う。

【迷う→賛成へ】

○悩んでいる人がいっぱいいるから、今は必要だと思うけど、将来的には、悩んでいる人が少なくなってほしい。

↓

みんなの意見を聞いて、賛成になった。虐待で殺される赤ちゃんの命を救いたいから。

「赤ちゃんふれあい体験」生徒の感想

◆赤ちゃんふれあい体験学習を通して感じたことや考えたことを書きましょう。
また、自分の成長や家族とのかかわりについても考えてみよう。

お母さんと一緒にオムツ替えに挑戦

・赤ちゃんをおんぶしてみたら思ったより重くて、お母さんは大変だったのだなあと思いました。最初は泣いていたけれどだんだん慣れてきてくれて、泣き止んで笑ってくれたとき、すごくうれしかったです。自分も小さいとき、色々な人と触れ合うことで感情などのいろいろなことを覚えていったんだなあと思いました。周りの人に感謝して生活していきたいです。（男子）
・家族はこういうふうにして私を育ててきたんだなあと、赤ちゃんを大事にしているお母さんの姿を見て、そう思いました。私もあんなに小さい、何も伝えられなくて泣いてばかりいる赤ちゃんだったなんて、なんかすごく不思議な感じになりました。（女子）
・子育ての大変な話を聞いているときに、なかなか寝てくれないとか、泣いてばかりいるとか言っていたけど、そんな話でさえ、とても楽しそうにうれしそうに話すお母さんたちが印象的でした。たとえどんなに辛いことでも、自分の子どものためにすることなら許せるのだろうなあと思いました。（女子）

◆赤ちゃんふれあい体験を通して「いのち」について感じたこと、考えたこと、
これから生きていく上で大切にしていきたいことなどを書きましょう。

・この体験をして命がどれだけ大切なものかわかりました。親が自分の子どもを殺す事件があるけど本当に信じられません。どうして自分の子どもを殺せるのだろう？と思います。今回来てくださったお母さんたちは絶対にそういうことはしないと思いました。自分の子どもにも他人の子どもにも優しく愛情をもって接していたからです。「いのち」は本当に大切で粗末に扱ってはいけないものだと改めて思いました。（女子）
・赤ちゃんを抱いてみて、すごく命の重さがわかったような気がするし、命の大切さを改めて感じました。命は大切にしたいと思ったし、周りの人の命も大切にしなきゃなあと思いました。（女子）
・「いのちってすごいなあ」と思った。あんなにちっちゃかったのがここまで大きくなる。すごい！あんなにちっちゃくてもしっかり生まれてこれる。すごい！何億のうちの１つが自分。そして生まれてきた。すごい！お母さんの話を聴いていて、助産師さんの話を聴いていて、「この命、大切にしなきゃ」って思った。（男子）
・一人のお母さんが「みなさんも体を大切にしてください。」と何回も言っていました。自分の体から新しい命が生まれてきて初めて、どれほど自分の体が大切なのかが分かるのだろうなあと思いました。（女子）

平成１９年度　「命の大切さを学ばせる教育」の月別年間指導計画

上越市立城北中学校

◇担任や教科担当による指導　●養護教諭による、または関わる指導　■栄養士による指導　▲外部講師による指導

月	生や性に関わる体験活動	生や性に関する指導	食に関する指導	「命を守る」指導	道徳の時間の指導	各教科の指導
4月			■◇給食指導 （１年間）			【３年国語】「握手」 【１年国語】「野原はうたう」 【１年理科】「生物の世界」 （４～５月） 【２年家庭科】 「食生活を自分の手で」 （１年間）
5月						【３年理科】「生物の細胞と増え方」
6月		【３年】 ●「異性の友人との関わり」 ◇（学活）		◇避難訓練１ （地震への対応） 【１年】 ◇「喫煙防止教育」 （学活）		【３年社会】「人権と共生社会」 【２年理科】「動物の世界」 （６～７月）
7月	【３年】 ▲「幼児理解とふれあい体験」 （家庭　前期クラス 【２年】 ▲「助産師から学ぶ親子性の教室」 （学活＆ＰＴＡ活動）	【１年】 ●「携帯電話との付き合い方」（学活）	■食と生活リズム 実態調査	【３年】 ▲「喫煙防止教育」 （保健）	【３年】「命の尊さ」 **「八月六日」** 【２年】「命の輝き」 **「お母さんへの手紙」**	【３年家庭】 「保育所や幼稚園に行ってみよう」
8月						
9月	【全学年】 ▲「性教育講演会」 （学校行事）		【２年】 ◇■●「生活習慣病の予防・朝食指導・血液検査事後指導」（家庭）		【１年】「命の重さ」 **「スクープ写真」**	【３年英語】 「A　Mother's　Lullaby」 （「かあさんの歌」） 【１年国語】 「大人になれなかった弟たちに……」 【２年国語】「字のないはがき」
10月	【３年】 ▲「赤ちゃんふれあい体験」（家庭） ▲「助産師による生と性の講話」 （保健）		【１年】■ 「朝食ミニ講話」（給食時） 【１年】■ 「保護者向けミニ講話」 （給食試食会）	【２年】 ▲「心肺蘇生法講習」 （保健）	【３年】「命の尊重」 ①「赤ちゃんポストをどう考える？」	【３年国語】「挨拶」 【３年社会】「裁判の種類と人権」 【２年保健体育】 「傷害の防止」
11月	【全学年】 ▲「スタートライン公演、「子どもフォーラム」 （学校行事） 【３年】 ▲「幼児理解とふれあい体験」 （家庭　後期クラス） 【２年】 ▲「郡司ななえさん講演会」 （道徳）	【全学年】 「自分や周りの人の生について考えよう」 （学活） 【１年】 ◇「生命の誕生」（学活）	【３年】◇■ ●「生活習慣病の予防」（保健）			【３年国語】「生き物として生きる」 【３年家庭】 「保育所や幼稚園に行ってみよう」 【１年保健体育】 「心身の機能の発達と心の健康」
12月		【２年】 ●「性の情報」（学活） 【３年】 ●「エイズと性感染症」 （保健）		◇避難訓練２ （不審者への対応）	【１年】「大切な命」 **「スカイダイビング」** 【２年】「命の重さ」 **①「エイズと生きる」**	【３年保健体育】 「健康な生活と疾病の予防」
1月					【３年】「生命の尊重」 ②「いのちをつなぐ」	【３年理科】「自然と人間」 【２年社会】 「第二次世界大戦とアジア」
2月		【１年】 ◇「二次性徴と男女の思いやり」 （学活）			【２年】「命の重さ」 **②「生きるつとめ」**	【３年国語】「二つの悲しみ」 【３年社会】「国際社会と世界平和」
3月						【２年国語】「マドウーの地で」 【３年国語】「高瀬舟」